

エコツアーリズムによる 自然資源の保全と潜在性

株式会社
地域環境計画 生きものと共生する
地域づくり **ちいかん**

千々岩哲・上村晋平・平尚恵・永田陽介

社会問題の解決

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



自然環境に関する分野は日本の課題 -SDGsの日本の評価-



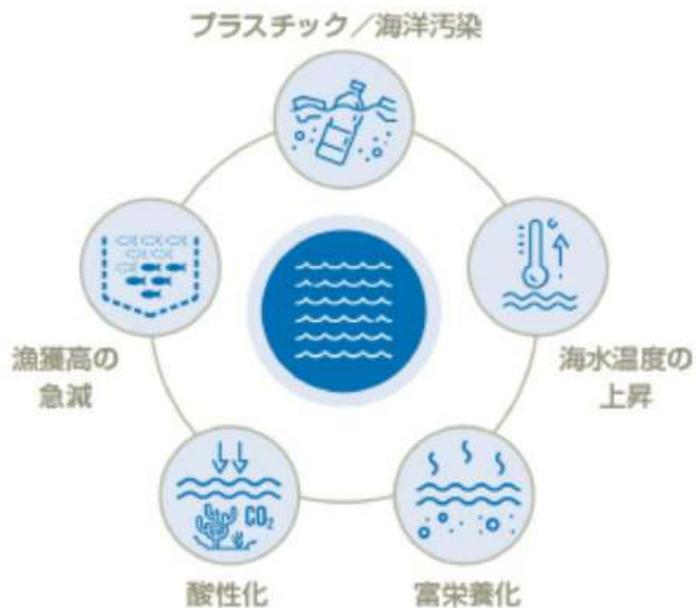
SDGs の各ゴールに対する日本の年次評価の動向
(出典：<https://sdgs.media/blog/4130/>)



SDGs年次報告2021から

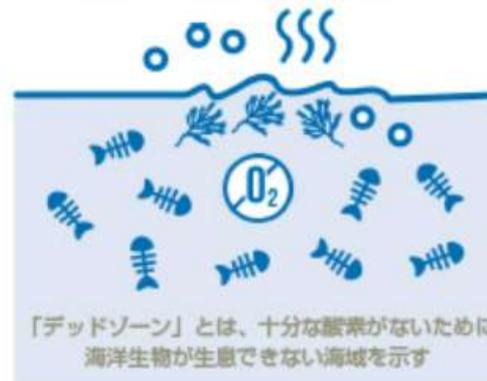
私たちの海洋の
持続可能性は

深刻な脅威にさらされている

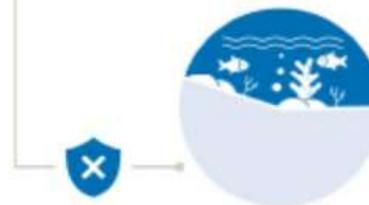


30億を超える人々が
海洋で生計を立てている

デッドゾーンは
2008年の400カ所から
2019年には700カ所へと
驚くべき割合で増加している



半数を超える
主要な海洋生物多様性領域が
保護されていない



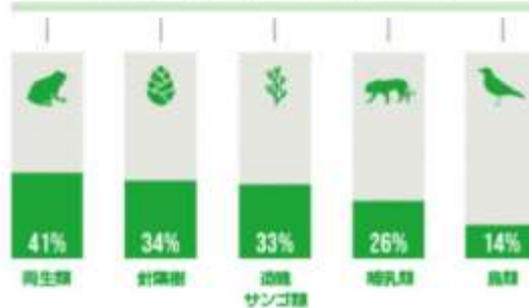


SDGs年次報告2021から

国際自然保護連合 (IUCN) の
レッドリストで評価対象となった
生物種の4分の1超が

絶滅の危機に

絶滅の危機に瀕した生物種の割合



—— IUCNレッドリストは ——
134,400種を超える哺乳類、鳥類、両生類、
造礁サンゴ、針葉樹に関するデータを追跡。
37,400種超が絶滅の危機に瀕している

持続可能な森林管理に向けた
前進が見られた

しかし、世界ではこの20年間で
1億ヘクタールの森林が失われた
(2000-2020年)



主要生物多様性領域の
保護に向けた前進は
この5年間 **停滞** している

各主要生物多様性領域における
保護区指定率の
世界平均 (2021年)



ほぼすべての国が
特定外来生物を阻止
または
規制する法律を採択



特定外来生物は固有種の生物多様性に悪影響を及ぼし、
世界経済に毎年数十億ドルもの損害を与えている

環境分野での国際レベルでの取り組み

国際的な枠組み など	具体的な取り組み
気候変動枠組条約	パリ協定、COP26グラスゴー気候合意 (森林破壊防止に関する首脳宣言など) ESG投資、TCNDなどの市場メカニズム
生物多様性条約	愛知ターゲットに代わる新ターゲット、 ESG投資、TNFDなどの市場メカニズム OECMの仕組みづくりと推進
S D G s	国連機関、条約を通じた各国の取り組み推 進（年次評価やレポートなど）

エコツーリズムとSDGs

— 課題伝達による関係人口の増加 —



その他のゴールも
テーマにできる

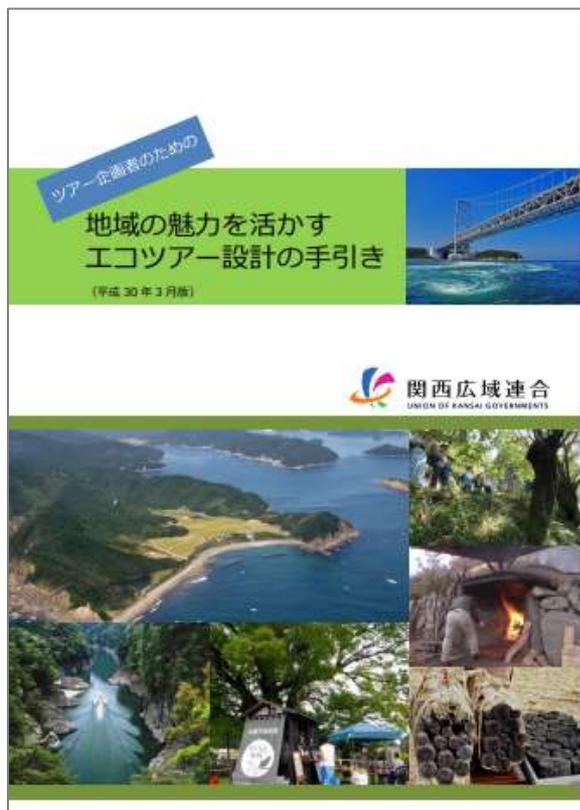


7+3のゴールにコミット

エコツアーのコンテンツは 社会問題との接点

課題	資源	関連対象となる SDGsゴール	
自然環境の保全 野生生物の保護	野生生物	13, 14, 15	4, 17
温暖化対策 (気候変動対策)	新エネ施設 森,風,水,地形	7, 13	
農林漁業や伝統産業、 地域行事の担い手不足	一次産業 民間信仰	8, 11, 12	
地域を持続させるための 地域産業、雇用の創出	地場産業 伝統産業	8, 9, 11, 12	
人口減少、高齢化による 人材不足	農山漁村の 暮らし	11	

エコツアー設計の手引き



関西広域連合
「活かしたい自然エリア」



エツアーによる
利活用と保全を推進



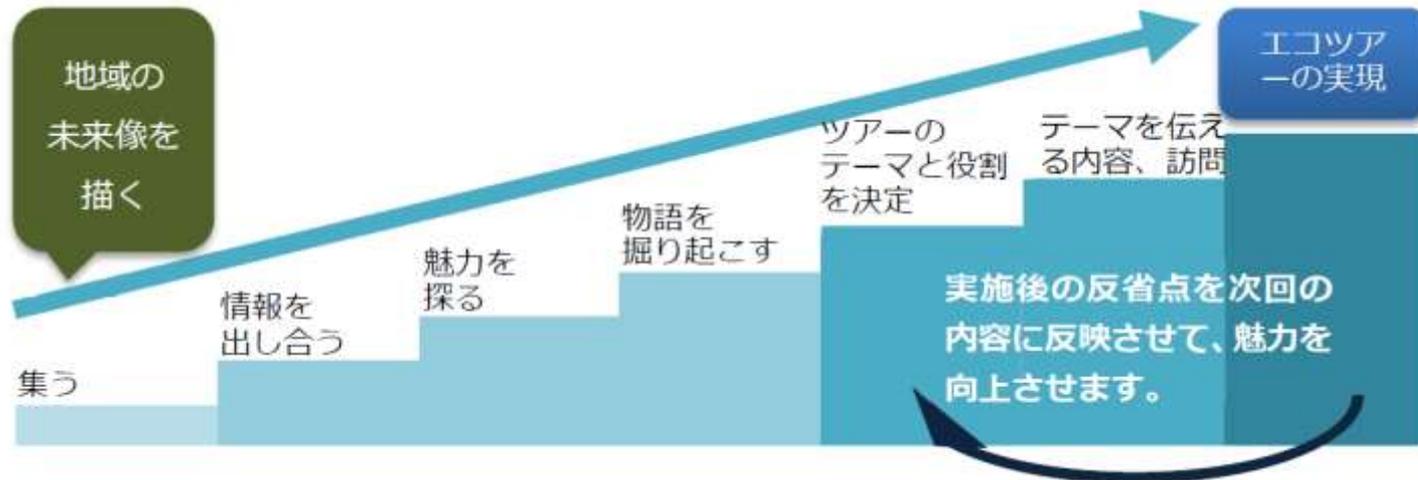
様々な主体で構成された
委員会を通じて手引書を作成

出典：関西広域連合HP：

ツアー企画者のための地域の魅力を活かすエコツアー設計の手引き

<https://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/10/ecotour-tebiki.pdf>

エコツアーのコンテンツ作り - 3者が作り出す世界 -



エコツアーのコンテンツ作り

－主体に合わせた関りと手順の整理－

【もくじ】

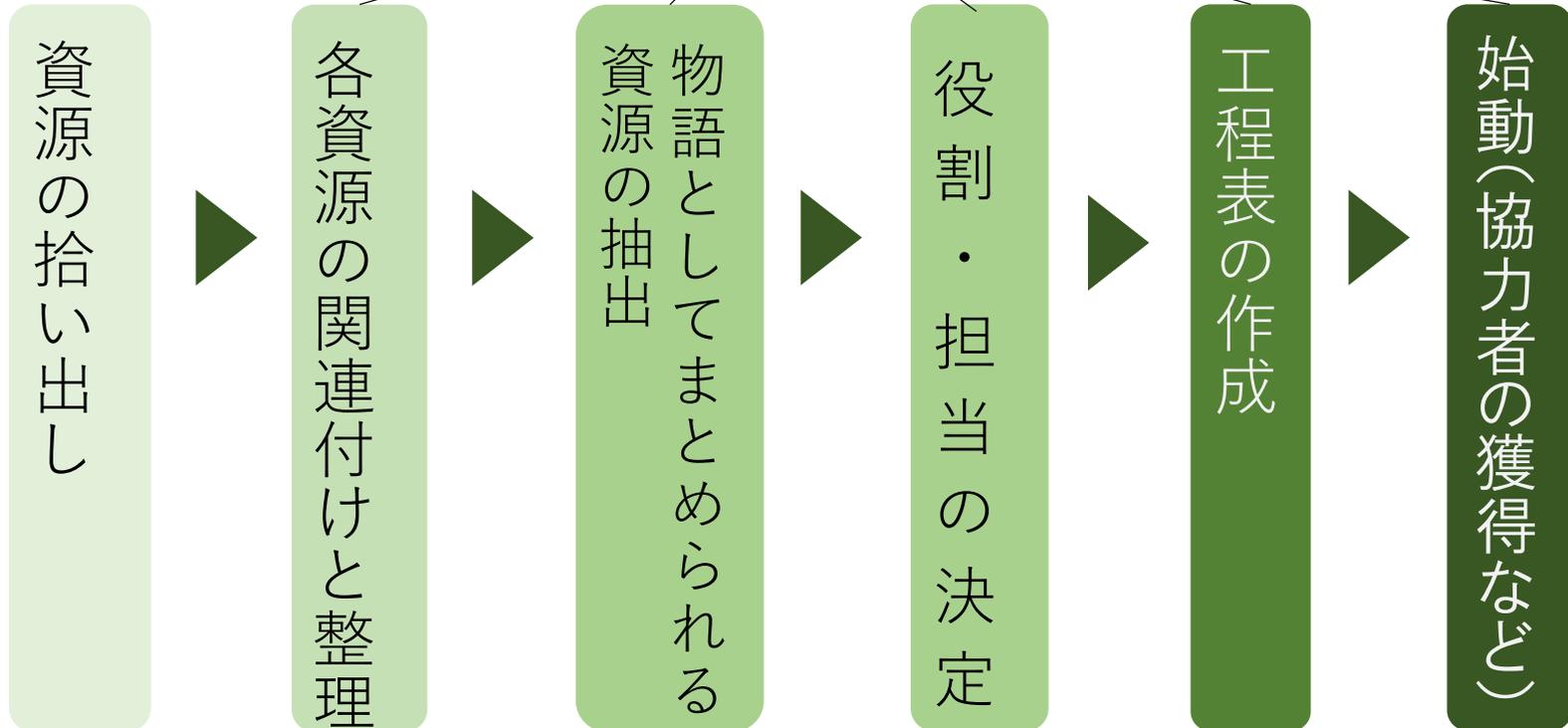
● エコツアー設計の手引き～関西の活かしたい自然エリアの自然資源活用～	8	
● 1 はじめに	9	
● 2 エコツアー設計の手順	10	
2-1 「地域資源」の拾い出しと魅力の整理		
手順①	12	【地域住民と協力者の活躍】
2-2 「地域資源」の選定		
手順②、手順③	14	
手順④、手順⑤	16	
2-3 各地域資源を基にエコツアーを組み立てる		
手順⑥、手順⑦	18	
手順⑧、手順⑨	20	【プロモーターの支援領域】
手順⑩	21	
2-4 組織づくり、リスク管理に関する留意点	23	
● 3 エコツアー参考事例	25	

* 詳細は手引書をご確認ください

地域の事業組織による 将来像・ビジョンの設定

→地域のルール、ガイドラインづくり

ビジョンとの整合性の確認



地域・組織の将来像は社会課題の解決とむずびついている

先行事例から見える景色

令和2年度野生生物観光に関する事例収集等業務
(環境省 自然環境局 野生生物課 委託)



出典：<https://www.env.go.jp/nature/wildlifetourism/top.html>

国内の掲載事例の傾向

No.	事例 団体組織	活動地域	科学的 知見	ガイド技 術、育成	住民への 学習機会 提供	学習の 提供	保全 ルール	保全協力 金・寄付	イン バウンド 対応
1	エバーラスティング ネイチャー	小笠原諸島	○		○	○	○		
2	海豚人丸	御蔵島	○				○	○	
3	沖縄ネイチャー オフィス	沖縄本島	○	○	○	○	○	△	○
4	ワンダートランク	道東、 西表島	○						○
5	奥多摩源流こすげ	小菅村			○	○		△	
6	ピッキオ	軽井沢市	○	○	○	○	○	△	○
7	日本アルプス センター	日本アルプ ス山系	○	○			○		
8	奥入瀬自然観光資源 研究所	十和田市	○	○	○		○	△	○
9	南アルプス生態邑	早川村	○	○	○	○		△	
10	観光ネットワーク 奄美	奄美大島	○	○			○		
11	(コラム記事) BUSHIDO	日南市	○		○			○	○

○:取り組みあり、または該当

△:対象団体が収益の一部で保全等活動を実施

掲載事例から 規制と保全資金の調達

鳥取県
日南市

- 特別天然記念物オオサンショウウオの**研究者の調査に参加**(監督下)
- 参加費の一部が保全基金へ

- **OECM**
- 旅行者は適切な行動を遵守

鹿児島県
奄美大島

- 原生林金作原林道への**進入車両数の制限**
- **ガイド同伴**による立入り推奨

- 過度な利用を**抑制、回避**

東京都
御蔵島

- イルカウォッチング**自主ルール**
- 徴収した**海域協力金**を調査に活用

- イルカへの干渉を**抑制、回避**
- **調査費の確保**

沖縄県
金武町

- マングローブの立入り防止が課題
- **協議会を設けてマングローブ保全のルールづくり**が進行中
- **鳥類繁殖地タイモ畑の振興&保全**

- **OECM**
- 群落保全方法の検討と実施

海外事例にみる発展サイクル

カナダ
BC州
グレイトベアロッジ

- 研究に基づく観察ルール設定
- 適正ガイドルール普及の業界団体を設立
- 特別な時間の提供、保全協力金によるさらなる改善と発展 → 高額ツアーの実現

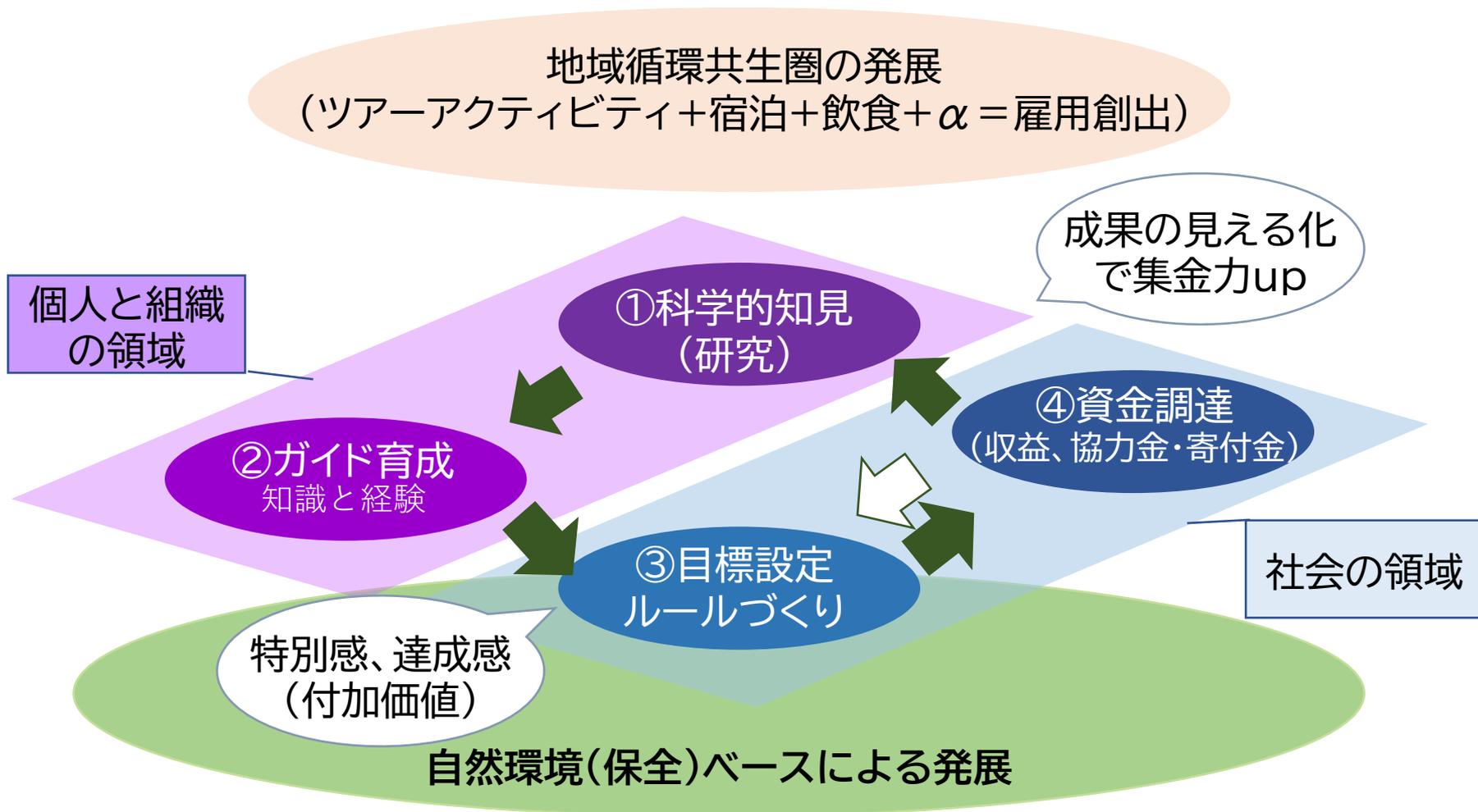
アメリカ
ミズーリ州
猛禽類保護センター

- 猛禽類、鳥類の保護保全が中核
- 科学的知見に基づく傷病鳥問題の啓発
- 寄付金、活動資金の獲得と発展

インドネシア
パピティム島
ミズールリゾート

- 海洋生物の保護(地区)のためのロッジ
- ダイビングロッジの運営と密猟防止パトロールにより海洋生物を保護。
- 地産地消にも取り組み、雇用を創出し、保護区の拡大とともに密猟が減少。

エコツーリズムによる発展サイクル



まとめ

コンサルティングの役割

(科学、人脈、つなぐ力、まとめる力)

- エコツーリズムを通じて社会課題を参加者に伝え自分ごとに
→関係人口の増加に寄与
- エコツーリズムで自然環境保全と地域経済の好循環を実現
- 地域や組織のビジョンが地域ルール、ガイドラインの作成につながる
- 課題解決を伴った地域づくりに発展

ご清聴有難う御座います。